令和５年度　第1回いじめ対策総点検学校訪問指導（報告）

１　日　程・場　所

令和５年７月27日（木）応接室

10:00～10:50　　現状の聴き取り、協議

10:50～12:00　　グループワーク（シミュレーション）

２　訪問者

生徒指導課　いじめ対策室　副参事　　１名

生徒指導課　支援・相談班　指導主事　１名

３　参加者

ＰＴＡ役員、校長、教頭、いじめ対策推進教員、生徒指導主事

１学年主任、２学年主任、３学年主任

４　グループワーク見学者

県立新発田南高等学校職員（１学年１名、３学年２名）

５　総　括（指導・感想等）

（１）自校体制について

①学校の組織力の強化

○校長のリーダーシップのもと、組織的な対応で訴えがあった後、管理職やいじめ対策推進教員に即報告が上がってくる体制となっている。

○被害生徒、加害生徒への聴き取りを行った後、それぞれの保護者に生徒から聴き取った内容と支援・指導の方針を当日に説明していることについても、継続して行うよう指導があった。

○事案内容等を校内でどのように情報共有しているかについて、職員朝会等で全職員に情報共有していることや共有ドライブにパスワードを設定し全職員が閲覧できる体制はよいと指導があった。

②教員の意識改革と指導力・対応力の向上

○職員対象の研修では、出張、年休等で欠席した職員に対して、研修資料を直接配付していることや校務支援システム（掲示板）を活用して研修資料が閲覧できるようにしていることは継続して行うよう指導があった。

③相談しやすい体制

○いじめに関するアンケートを年に３回実施（記名式２回、無記名式１回）し、そのほかに年に２回hyper-QUを実施していることから、相談しやすい体制を作っている。継続して行うよう指導があった。

④保護者との連携

○入学式やＰＴＡ総会等を通じ、校長が本校の「いじめ対策基本方針」や事例を直接説明していることは継続して行うよう指導があった。

○本校の「いじめ対策基本方針」は、学校ホームページに掲載しているが、印刷して保護者に配付していないため、配付するか学校ホームページに掲載していることを周知するよう指導があった。

（２）「グループワーク（シミュレーション）」について

○連絡方法及び連絡内容について校長より担任に指示があり、保護者への連絡後、管理職、いじめ対策推進教員に報告する体制になっていると指導があった。

○指導はなかったが、生徒から聴き取った記録や保護者への連絡した記録について、事実を基に記載し推測などは書かないことや実際に発した言葉として、「○○○・・・」と言った。「○○○・・・」と話したことなど、記録の方法について職員に指導（確認）する必要があると感じた。

○被害生徒を徹底して守ることについて、被害生徒及び保護者の要望に応じた対応窓口の紹介や警察への相談を促すことなど具体的な支援方法を伝えるよう指導があった。

○被害生徒の保護者に伝えるべき「本事案について学校が把握したこと」を校長のリーダーシップにより検討、整理できていたと指導があった。

○「保護者用自殺予防リーフレット」を用いて、被害生徒の保護者と自殺のリスクについて共有することやスクールカウンセラーや外部機関への受診を促すよう指導があった。

（３）ＰＴＡ役員の感想

○グループワーク（シミュレーション）を見ることができてよかった。先生方が子どもたちを守るために日々、一生懸命に取り組んでいることに感謝している。今後も継続した取り組みをお願いしたい。